

Title	事業部戦略策定のための利益計画モデル - L社の事例を中心として -
Sub Title	
Author	小野広文(Ono, Hirofumi) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0194

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

小野 広文

主査 伏見 多美雄

(日立金属株式会社)

副査 柳原 一夫

所属ゼミナール 伏見 多美雄 研

柴田 典男

事業部戦略策定のための利益計画モデル —L社の事例を中心として—

この論文は、金属工業会社・L社のQ事業部を例として、戦略策定プロセスの問題点を検討し、戦略策定の基礎となる利益計画モデルを提示するものである。

このモデルの基本的な考え方は、つぎの通りである。

- (1) Q事業部が扱う各製品事業への設備投資などの計画が、事業部全体のキャッシュフローに与える影響を試算して、事業評価及びキャッシュ・バランスの検討に役立つ。
- (2) 事業部の業績評価の対象となる財務会計上の利益を試算予想損益計算書、貸借対照表を出力する。
- (3) 意志決定に重要ないくつかの経営指標も出力する。
- (4) 予測の不確実性の大きな要因及び政策的な要因について「感度分析」を行う。

このシミュレーション・モデルは、L社の事業部制マネジメント・システムに準拠したものであるが、基本的な考え方は一般に十分適用可能である。

論文の構成は、まず、L社の概要を紹介し(第1章)、その経営戦略と事業部長期計画作成の現状と問題点をまとめる(第2章)。つづいて、モデルの戦略策定上の狙い及び基本的な考え方をまとめ(第3章)、具体的モデルの実際を説明、いくつかの仮設例によるシミュレーションを行い、その使い方と結果を示す(第4章)、最後まとめとする(第5章)

以 上